

第2章

現金・当座預金

～学習内容～

- ・ 現金
- ・ 現金過不足
- ・ 当座預金
- ・ 当座借越
- ・ 小口現金

お金は大事だよ～♪



第2章 現金・当座預金

第1節 現金

1. 現金の範囲

「現金」と聞くと100円玉や千円札のように硬貨や紙幣をイメージされると思いますが、簿記上の現金の範囲はもっと広く、次のような通貨代用証券も現金として扱われます。

簿記上の現金	
①紙幣・硬貨	②他人振出の小切手
③送金小切手	④郵便為替証書
⑤配当金領収証	⑥期限到来後の公社債利札



これらは、銀行等の金融機関に持って行くと現金を受け取ることができるから、簿記上ではこれらを受け取った段階で現金として扱うんだ。

2. 現金の処理

現金は資産なので、増えたら借方、減ったら貸方に記入します。

【例2-1】

商品を100円で仕入れ、代金は現金で支払った。(借方の『仕入』については第3章で解説します。)

勘定科目	金額	勘定科目	金額
仕 入	100	現 金	100

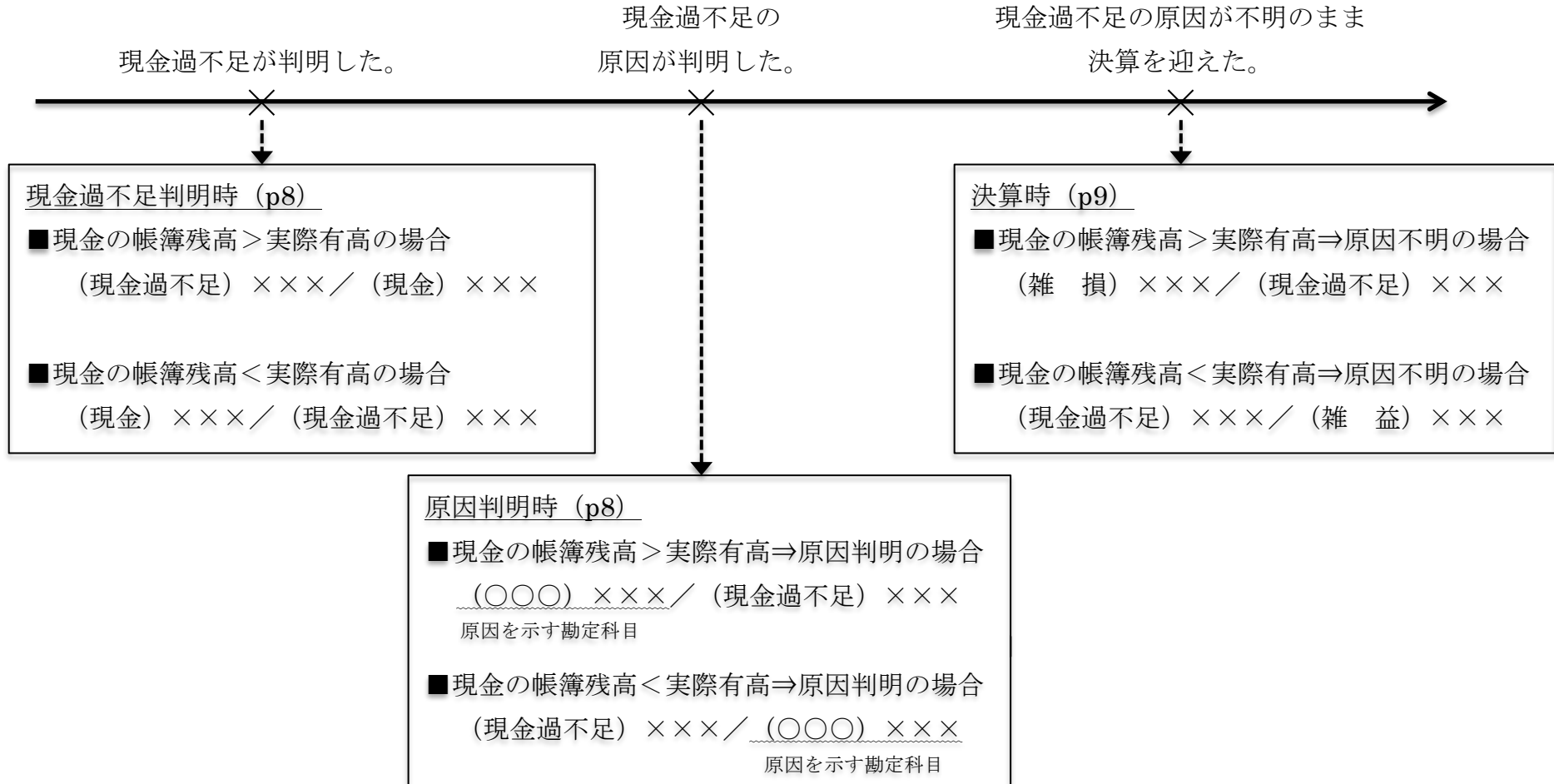
【例2-2】

商品を100円で売上げ、代金は送金小切手100円を受け取った。(貸方の『売上』については第3章で解説します。)

勘定科目	金額	勘定科目	金額
現 金	100	売 上	100

第2節 現金過不足

1. 処理の流れ



2. 現金過不足判明時

「現金過不足」とは、現金の帳簿残高と実際有高が一致しない状態です。

現金過不足が判明した場合には、現金の帳簿残高を実際有高へ修正します。修正するときには『現金』が増減することになりますが、このときの相手科目は『現金過不足』を使います。

【例2-3】

現金の帳簿残高は700円であるが、実際有高を確認したところ500円であった。

勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金過不足	200	現金	200

処理のポイント

こっちに合わせるんだ

帳簿残高 ⇒ 実際有高



3. 原因判明時

現金過不足を計上した後にその原因が判明した場合には、計上した『現金過不足』をその原因を示す勘定科目に振り替えます。

なお、「振り替える」とは、ある勘定科目から他の勘定科目に変更することであり、すでに計上している現金過不足を取り崩す、つまり現金過不足判明時の仕訳の逆側に記入し、相手科目には原因を示す勘定科目を記入します。

【例2-4】

以前、200円の現金不足を現金過不足として処理していたが、その原因が通信費（費用）の記入漏れであることが判明した。

勘定科目	金額	勘定科目	金額
通信費	200	現金過不足	200

4. 決算時

現金過不足を計上した後に、その原因が不明のまま決算を迎えた場合には、計上した『現金過不足』を『雑損』（費用）または『雑益』（収益）に振り替えます。

【例 2-5】

決算において、現金過不足勘定が 200 円（借方残高）であったため適切に処理した。

勘定科目	金額	勘定科目	金額
雑 損	200	現金過不足	200

【例 2-6】

決算において、現金過不足勘定が 200 円（貸方残高）であったため適切に処理した。

勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金過不足	200	雑 益	200

例 2-5 は 200 円の損をした状態、
例 2-6 は 200 円の得をした状態だよ。



第3節 当座預金

1. 当座預金とは

「当座預金」とは、企業や個人事業主が業務上の支払いに利用する無利息の預金で、この当座預金口座を開設すると小切手[※]を利用することができるようになります。

※：小切手とは、振出人が自分の取引銀行に支払いを委託する証券で、小切手の受取人は銀行に持っていくことで小切手を現金に換金することができます。

2. 当座預金の処理

当座預金は資産なので、増えたら借方、減ったら貸方に記入します。

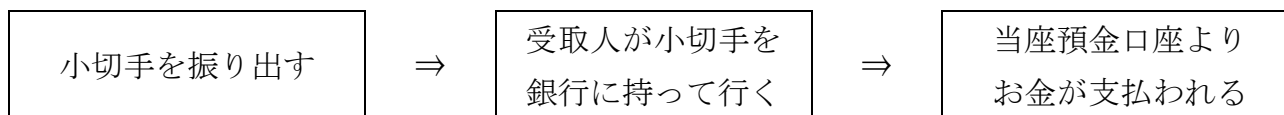
当座預金口座に預金を預け入れると、当座預金（資産）が増加します。

【例2-7】

当座預金口座に現金 1,000 円を預け入れた。

勘定科目	金額	勘定科目	金額
当 座 預 金	1,000	現 金	1,000

当座預金は小切手を振り出すことにより減少します。
 小切手による代金支払いの流れは以下の通りです。



このように、小切手を振り出すといずれ当座預金（資産）が減少することになるため、振り出した段階で『当座預金』（資産）を減少させる処理を行います。

【例 2-8】

A 商店は B 商店から商品 500 円を仕入れて、代金は小切手を振り出して支払った。

（A 商店・借方の『仕入』、B 商店・貸方の『売上』については第 3 章で解説します。）

A 商店				B 商店			
勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
仕 入	500	当 座 預 金	500	現 金	500	売 上	300

間違いやすいポイント
・ 自己振出小切手 ⇒ 『当座預金』で処理
・ 他人振出小切手 ⇒ 『現金』で処理

第4節 当座借越

1. 当座借越とは

通常、当座預金口座の残高を超える金額の小切手を振り出すことはできませんが、銀行と当座借越契約を結ぶと、一定の限度額の範囲でこれが可能となります。

当座預金の残高を超えた預金金額を引き出すこと、つまり当座預金残高がマイナスの状態になることを「**当座借越**」といい、銀行から借金をしていることを意味します。

問題を解く際には、一勘定制によるか二勘定制によるかの判断をしなくちゃいけないんだ。
この判断は、問題文の指示に従う場合もあれば、勘定科目の選択肢から判断するような場合もあるよ。



2. 当座借越の処理

当座借越の処理には、一勘定制と二勘定制という2つの方法があります。

「一勘定制」は、当座預金の増減取引を『当座』という1つの勘定科目で処理する方法です。

これに対し「二勘定制」は、当座預金の増減取引を『当座預金』と『当座借越』という2つの勘定科目で処理する方法です。

【例2-9】

支払手数料（費用）500円を、小切手を振り出して支払った。なお、当座預金口座の残高は300円であり、銀行とは当座借越契約（限度額500円）を結んでいる。

一勘定制				二勘定制			
勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
支払手数料	500	当座	500	支払手数料	500	当座預金	300
-	-	-	-	-	-	当座借越	200

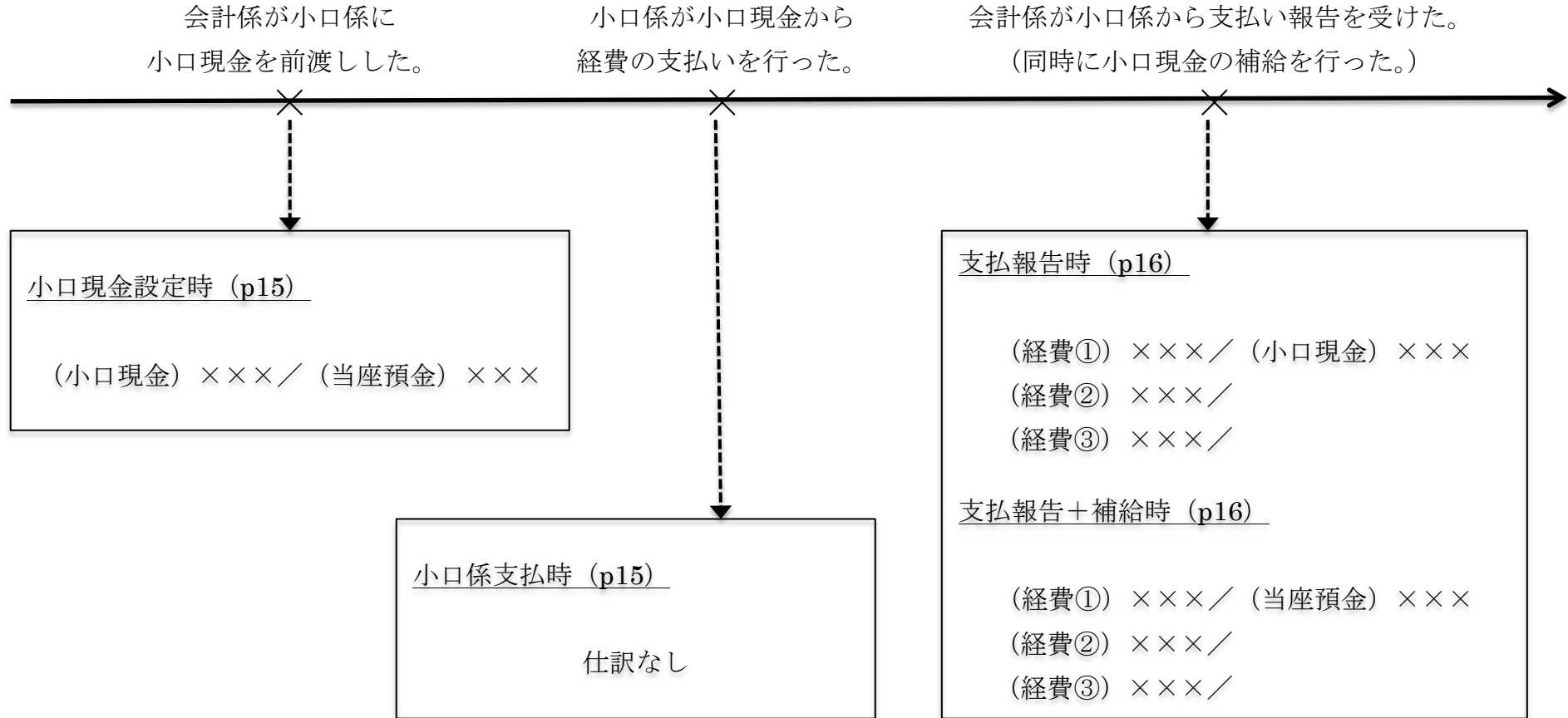
【例2-10】

【例2-9】の状態から、現金1,000円を当座預金口座に預け入れた。

一勘定制				二勘定制			
勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
当座	1,000	現金	1,000	当座借越	200	現金	1,000
-	-	-	-	当座預金	800	-	-

第5節 小口現金

1. 取引の流れ



2. 小口現金とは

会社では、通常、経理部（会計係）が帳簿作成やお金の管理をしています。

しかし、経理部以外の各部署で交通費や切手代などの細かい支払いが必要な場合もあり、これに備えて少額の現金を事前に各部署（小口係）に前渡しする場合があります。このように前渡しした少額の現金のことを「**小口現金**」といいます。

3. 小口現金設定時

会計係が小口係に小口現金を前渡しした場合、手許にある現金と区別するため『小口現金』（資産）として処理します。

【例 2-1 1】

会計係が小口係に小口現金の前渡分として、小切手 500 円を振り出した。

勘定科目	金額	勘定科目	金額
小口現金	500	当座預金	500

4. 小口係支払時

各部署で諸経費の支払いが生じたときは小口係が小口現金より支払いを行いますが、仕訳は経理部（会計係）が行うため、この時点では仕訳を行いません。

5. 支払報告時

小口現金制度では、1 週間等、一定期間毎に小口係が経理部（会計係）にその期間に使った金額を報告します。そしてこの時点で、経理部（会計係）が仕訳を行います。

支払報告を受けた場合には『小口現金』（資産）の減少を認識し、相手科目には支払内容に応じた費用を計上します。

【例 2-1 2】

会計係は小口係より、電気代 200 円、電話代 100 円を支払ったという報告を受けた。

勘定科目	金額	勘定科目	金額
水道光熱費	200	小口現金	300
通信費	100	-	-

小口現金制度では、支払報告を受けた後、使った分の補給を行います。この時の処理は前渡時（設定時）の処理と同じです。

なお、前述の支払報告と補給を同時に行うこともあります。この場合には、前渡時の処理と支払報告時の処理を 1 つの仕訳で行います。

【例 2-1 3】

会計係は小口係より、タクシー代 200 円、文房具代 100 円、雑誌代 100 円を支払ったという報告を受けたため、小口現金補給のため小切手 400 円を振り出した。

勘定科目	金額	勘定科目	金額
旅費交通費	200	当座預金	400
消耗品費	100	-	-
雑費	100	-	-